

# 突発性難聴

原因もないのに、ある日突然起こる突発性難聴。  
年齢、性別に関係なく、誰にでも起こる可能性があります。

イラスト/杉 美奈 編集協力/森田佑季慧

「なんだかよく聞かない。  
耳鳴りもするよ。」「  
気がするけど…」



教えてくれたのは

## 笠井 創先生

笠井耳鼻咽喉科クリニック・自由が丘診療所院長。千葉大学大学院を修了後、国立がんセンター病院、千葉大学医学部非常勤講師などを経て、現職。耳鼻咽喉科全般の診断と治療に詳しい。

<http://www.linkclub.or.jp/~entkasai>

ある日突然片方の耳が聞こえにくくなる

特にこれといった原因も思い当たらないのに、音が聞きにくくなる……、それはもしかしたら突発性難聴かもしれません。

「突然、片方の耳の聞こえが悪くなるのが、突発性難聴の典型的な症状です。耳鳴りやめまいを伴うこともあります」と笠井創先生。

原因としてはウイルス感染症、内耳の血液循環障害、アレルギーなどが考えられますが、はっきりとしたことはわかっていません。またかかりやすい年代も20〜50歳代と幅広く、男女差もありません。「診断すると、睡眠不足、疲れ気味、ストレスが重なって……、といった症状を訴える人が多いのですが、現代社会に生きていてストレスにさらされていない人はあまりいません。そういった意味でも、いつ、誰に起きてもおかしくない病気だといえるでしょう」。

難聴に気づくのは、電話をかけたときや、ヘッドホンで音楽を聴くとき、仕事や会議などで話が聞き取りにくいときなどですが、ある朝、目が覚めたときに突然聞こえにくくなっていることも

「これは睡眠中に突発性難聴が起きたと考えられます」。ただ突発性難聴は、もう一方の耳は聞こえているので、難聴の程度が軽い場合は、変だなと思いつつも何日か経過していたり、そのまま自然治癒しているケースもあると考えられます。また、自分では気づいていなくても、何となく耳が変だとか、耳あかが詰まっているのかと思つて耳鼻咽喉科を受診したら突発性難聴だったというケースもあります。

## 早期発見、早期治療が治療の決め手に

突発性難聴の症状は、耳が詰まったように感じたり、音が響くような感じがするほか、自分の話す声に変に聞こえる人も。めまいや耳鳴りを併発することもあり、めまいは2〜3日で治まることも多いのですが、耳鳴りはしばらく続くことがあります。確定診断は、聴力検査をすることでわかります。

聴力検査の結果、軽い難聴だと診断されたら「治療は

## もし突発性難聴になってしまったら？

突発性難聴は早期発見、早期治療が完治のカギになります。もし耳が詰まる、聞こえにくい気がする、などの症状があったら、早めに耳鼻咽喉科を受診し、医師の診断を仰ぐようにしましょう。

日常生活では安静を保ち、できるだけストレスのかからない生活を

出された薬は決められた時間、決められた量を確実に服用する



原因がわかっていない突発性難聴ですが、睡眠不足や、過労、ストレスなどが発症のきっかけになることもあるのです。リラックスできる生活を心がけましょう。



医師から処方されたステロイドホルモン剤とビタミン剤を服用し、聴力の回復状態を検査しながら薬の量を調節していきます。決められた用法は必ず守って。

通院しながらの投薬治療になります。ステロイドホルモン剤とビタミン剤を内服し、なるべくストレスのかからない生活を送るよう心がけます。軽度の場合は1週間以内、遅くても2週間程度で回復します。高度難聴の場合は入院治療して安静を保ち、点滴および投薬での治療になります。その場合も、治療は長くて2週間程度です。「突発性難聴は、発症後できるだけ早くに治療を始めたほうが治りやすいことがわかっています。ですから発症から1週間以内が完治するかどうかが分かれ道になります。発症後2週間を過ぎると治りも悪く、1カ月放置しておくとも症状が固定してしまい、改善の見込みはほとんどなくなります。何

となく聞こえが悪い、耳鳴りがずっと続いている、といった症状があったら、すぐに耳鼻咽喉科を受診して、早期発見、早期治療をすることが大事です」。

難聴が治ったあとも、定期的に耳鼻咽喉科で聴力検査を行うようにします。「ほとんどの場合は突発性難聴であることが多いのですが、なかには難聴になった時点では見つからなかった聴神経腫瘍(頭蓋内脳神経の良性腫瘍)が原因だったり、めまい発作を繰り返すメニエール病だったというケースもあります」。重大な病気を見逃さないためにも、また難聴の再発防止のためにも、耳の聞こえが悪いと思ったら早めに耳鼻咽喉科を受診するようにしましょう。